

ソーシャルスタンス

加藤 誓 (ちかい)

少し肌寒くなったが、気持ち良い朝である。「ゴミ出し」のついでに、近くの植田川の散策に出かけた。土手には曼珠沙華が咲き誇っていた。一昨日の台風15号の影響で色づいた桜葉が道一面にべっとりと落ちていた。所謂、「濡れ落ち葉」状態である。滑らないよう注意しながら、川上へと向かった。



川に何かいないかと、覗いていたら川上から白鷺が一羽飛んできた。特に餌をさがす様子もなく川の中を歩き廻り始めた。



そして、時々飛んできた川上の方を見詰めるように眺めていた。私もそちらの方に目をやった。20メートル程先にもう一羽、川底を突いている白鷺がいた。「ははーん！つがいだな。」

そこで、暫く夫婦と思われる二羽の行動を観察することにした。



「おーい！何やってんだよ。こっちに早く来いよ。うまそうなのが一杯あるぞ！」「ここにも丁寧に探せばありますよ！ほら、あった。またあった。」

どうも、川上が雌で、川下が雄のようだ。

一般的に男は、せっかちで、おおざっぱであり、女は丁寧であるが、しつっこい。鳥の社会もそうにちがいない。



「そんなに探さなくても、ここには沢山あるぞ。聞こえないのか！」とばかり、男は、川上へ急ぎ足。少しずつ男女の距離が近づいた。それでも女は男を見ようとはしない。マイペースで餌を突いている。



そんな様子を見ていたのは私だけではなかった。川下から来た、一羽のカルガモである。「白鷺さん、いや、コサギさんですよ！お仲の良いことで！羨ましい。」このカルガモは、女に違いない。カルガモの男は子育てにも一切協力せず、用がある時以外は別行動。勝手気ままな性格なのである。カルガモの女は「どうしたら男を引き付けることが出来るのか？」とこの機会を逃さない様一生懸命観察しようとしているのだ。コサギ夫婦の間をしつっこく嗅ぎまわるカルガモの女。たまたま、コサギの女が川上へと逆戻り。カップルの距離もだんだんと離れていった。「そんなに他人を気にしなくってもいいじゃないか。」と大きな声を発しながら、男は羽を広げ飛びかかる様に追いかけた。女はびっくりし、逃げようと羽ばたいた。



そして、私と、カルガモを残して飛び去り見えなくなった。カルガモには分かったかどうか知らないが、私は何となく分かった。



夫婦間の円満の秘訣は、「ソーシャルスタンス」が

大事であるということが！